

## 1-2 目標達成までのみちすじ

### (1) 2030年までの削減目標設定とその手法

#### ①試算に用いた削減手法と基礎推計

先述のように『福生市地域新エネルギービジョン』では、福生市における二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）排出量を、2010年に10%、2020年に25%、2030年に50%、現行より削減することを目標に掲げました。

これに基づき本調査では、その具体的内容について検討しました。福生市では太陽光エネルギー以外に有望な再生可能エネルギー源がないため、省エネルギーやエネルギーの効率的利用など、多様な手法を組み合わせることで削減を達成することとしました。その手法は以下の通りです。

表2 検討したCO<sub>2</sub>削減手法（対策）

	新エネルギー	省エネルギー等
産業部門	太陽光発電システムの設置 太陽熱利用システムの設置	建物・製造設備の省エネルギー、BEMS*の導入 重油ボイラーの天然ガス化
民生・家庭部門	太陽光発電システムの設置 太陽熱利用システムの設置 ペレットストーブの導入 コジェネレーションシステムの導入	高効率家電への買い換え 節電行動、HEMS*の導入 高効率給湯器への買い換え 節水行動 雨水利用 最新省エネルギー基準住宅への建て替え・改築
民生・業務部門	太陽光発電システムの設置 太陽熱利用システムの設置 コジェネレーションシステムの導入	建物の省エネルギー、BEMS*の導入
運輸部門自動車	ハイブリッド車などクリーンエネルギー車への買い換え 貨物車のクリーンエネルギー自動車への買い換え	軽自動車への買い換え エコドライブの推進 自動車利用回数の削減
運輸部門鉄道	高効率車両への置き換え	
その他の手法	天然ガスの普及 グリーン電力の導入 分散型発電・地域冷暖房システムの導入 地域冷暖房システムへのバイオマスボイラーの導入	

\* BEMS、HEMS：それぞれ、ビルエネルギーマネジメントシステム、ホームエネルギーマネジメントシステムの略で、コンピュータ、計測器、センサーなどを用いて電気、ガス、石油、水道などの消費状況を把握し、自動的に管理するシステムのこと

なお、乗用車や貨物自動車等の燃費、電力における再生可能エネルギー源比率（グリーン電力化率）などは最近の開発傾向や国の目標等を勘案して試算しました。また、基準となる年を